

平成30年度
教育に関する事務の管理及び
執行状況の点検評価報告書

令和2年2月
湯沢町教育委員会

教育事務、事業の点検・評価

平成 28 年 4 月に保小中一貫教育が本格スタートして 3 年目を迎え、教育委員会、認定こども園、小学校、中学校の連携を深め、家庭、地域と協働して、保小中の連続性のある教育体制の構築を図ってまいりました。

平成 30 年度における決算額は、児童福祉費 229,749 千円、教育費 340,859 千円となり町決算額に占める割合は 8.3%でした。

児童福祉費の内訳としては子育て総合支援費に 14,540 千円、児童クラブ費に 6,764 千円、認定こども園の運営管理費として 105,640 千円、児童手当費 93,992 千円などとなっています。

教育費の内訳としては、学校関係では奨学金等就学奨励費 26,192 千円、小学校・中学校にかかる費用として学園管理費 117,246 千円、学園振興費 19,608 千円、学校給食事業費 86,800 千円となっています。社会教育関係は、公民館費 35,210 千円、うち全国童画展事業費 3,420 千円で、文化財保護費 23,421 千円のうち雪国館の指定管理料として湯沢町観光協会へ 9,500 千円、生涯スポーツ推進費 18,748 千円のうち湯沢町総合型地域スポーツクラブ「ユースポ」へ町の体育事業のため 8,845 千円を支出しています。

1 教育委員会

(1) 教育委員

教育委員会の構成は、教育長、教育長職務代理者、委員 3 名で構成されています。教育長が第一義的な責任者であることと、町長が直接教育長を任命することで任命責任が明確化されています。

教育委員会は定例会議を毎月 1 回開催して教育委員会の各案件の審議をしており、入学式、卒業式、文化・スポーツ等の各種行事にも積極的に参加しています。

(2) 教育委員会事務局

教育委員会事務局では、子育て教育部長、管理指導主事嘱託員 1 名を配置し、教育課、子育て支援課、認定こども園それぞれ独自施策・課題の対応を進めました。

ア 教育課 学校教育係

教育課学校教育係は、主に小中学校に関する運営及び施設の維持管理及び奨学金や就学援助等に関する事務を行っております。

係の体制は、課長が係長を兼務し、主事 1 名、事務嘱託員 1 名、校務員は嘱託員 2 名を含む 3 名で業務を行いました。

イ 教育課 生涯学習係

生涯学習係は、公民館活動や生涯学習の推進、スポーツ振興、文化財保護等の事務を行っており、参事兼係長1名、主任1名、主事1名、事務嘱託員1名で業務を行いました。

ウ 子育て支援課

子育て支援課は、認定こども園、児童クラブ等の事務を行っており、町長部局から事務委任されています。また、子育て支援関連業務について総合的に対応する体制を構築しています。

課の構成は、課長1名、参事兼係長1名、主任保健師1名、主任保育士1名、嘱託社会教育指導員1名で業務を行いました。

エ 認定こども園

認定こども園は、園長1名、副園長1名、指導保育士1名、主任保育士8名、保育士8名、調理員3名と嘱託管理栄養士1名、事務嘱託員1名、臨時保育士15名、臨時調理員3名で業務を行いました。

2 各課・係の点検

(1) 教育課 学校教育係関連

ア 湯沢学園

認定こども園が開園して保小中一貫教育が本格スタートして3年目を迎え、園児、児童、生徒と一緒に活動する機会が増えました。合同避難訓練や春秋の8・9年生との花植え、1年生との年長児交流や2年生との交流、こども園運動会で1・2年生が応援したり、児童生徒会主催の「あおぞらまつり」では年長児を招待して開催したりしました。また、継続して「湯沢っ子絆活動」や三俣伊米神社例祭への3年生参加など地域に積極的に出向き、開かれた学校として活動しました。秋桜ハーフマラソンには、ランナーとして約180名、運営・応援ボランティアとして約35名の児童生徒が参加しました。「第6回教育フェスティバル」では、小学校学習発表会、中学校合唱コンクールとも素晴らしい出来栄でありました。第56回全国中学校スキー大会アルペン競技が苗場スキー場で開催され、湯沢学園8年生2名が出場しました。

また、日本教育校務員弘済会新潟支部・新潟日報社主催の2018年度「特色ある教育実践校・園」で湯沢小学校が最優秀賞に選ばれました。

施設等の整備関係では、野球場排水施設工事、ドレンヒーター設置工事、学校給食センター従業員トイレ改修工事等を実施しました。

イ コミュニティ・スクール

コミュニティ・スクール制度を取り入れて5年目を迎え、学校運営協議会について保護者や地域に理解協力を得るために主旨や内容の周知に取り組みました。

「あいさつ運動」では、地域に輪を広げるように取り組むとともに、児童生徒から「あいさつ標語」を募集しました。優秀作品 5 点を選出して広報や学園だよりに掲載しました。地元企業の御厚意で、5 作品をのぼり旗にしたもの 10 本を寄贈いただき、学園に設置しました。また、教育フェスティバル第 1 部では、学校運営協議会主催で長谷川絵美さんによる講演を行いました。

平成 30 年度新潟県コミュニティ・スクール研修会を湯沢町主催、新潟県共催により湯沢町公民館で開催し、県内 22 市町村、約 210 名が参加しました。

ウ 学力・学習状況

全国学力・学習状況調査等の結果では良い年度が続くことも見られるようになってきましたが、全体の児童生徒数が少ないため、ばらつきもあり、学力向上は引き続きの課題です。

学校生活において「自己肯定感」が低いことも課題となっていました。改善の兆しも見られます。メディアと接する時間を減らして家庭学習の時間を確保して学力の向上につなげていくことと併せて、さらに改善を図っていきたく考えています。

エ 体力の状況

体力的には、全国平均を上回るなど概ね良好な結果が得られていますが、学力と同様に年度による変動がみられるため、スクールバス登校の影響も注視しながら学園生活を通し改善を図っていきます。

オ 特別支援教育

小中学校における特別支援が必要な児童生徒の割合が増加しております。そのため、引き続き小学校に知的障がい 3 学級、自閉症・情緒障がい 1 学級、中学校にもそれぞれ 1 学級の特別支援学級を設置するほか、通級指導教室（言語通級、発達通級）も設置するとともに、介助員・相談員の確保に努めています。また、総合子育て支援センターにおいて、保小中一貫した支援体制の充実を図りました。

カ いじめ・不登校状況

いじめは、小学校で 5 件、中学校でも 1 件の認知が報告されましたが、個別指導や学年集会などで指導し、収束に向かいました。

不登校（病気を除く 30 日以上欠席）については、小学校で 3 件、中学校で 6 件発生しました。中学校の 6 件のうち、2 件は平成 30 年度中に登校できるようになりましたが、その他は指導を継続しました。

キ マグナ国際交流事業

国際交流事業の姉妹都市生徒受入事業では、生徒 8 名、引率 2 名、計 10 名が 7 月 2 日から 12 日まで湯沢を訪れ、様々な交流や体験をしました。湯沢学園生徒派遣事業では、初めて 7 年生が 1 名参加し、8 年生 7 名、引率 2 名、計 10 名が 7 月 26 日から 8 月 8 日まで米国ユタ州マグナにてホームステイ、文化交流等の貴重な体験をしてまいりました。

(2) 教育課 生涯学習係関連

ア 公民館事業

湯沢町成人式は、新成人 83 名（湯沢中学校卒業生 72 名）のうち新成人 59 名の参加により開催され、新成人実行委員会主催の第 2 部では「架橋～20 歳の軌跡～」をテーマに、両親への感謝、湯沢への思い、今後の進路や考えを発表しました。

林家三平師匠などによる「はじめての落語公演」を開催し、189 名が観覧しました。また、「湯沢をオペラの町に」をテーマとした笛田博昭ガラコンサートが行われ、公民館ホールが満席となる 360 名の方々が観覧しました。講座やサークル等で作った作品や踊り等を披露する場として湯沢町総合文化祭や芸能発表会を実施しました。

イ 公民館講座

継続している講座に加え、新たに「音楽 de 脳トレ」「パーソナルカラー」「チョークアート」の各講座を実施し、多くの方から参加いただきました。大相撲雪国湯沢場所開催に併せ「大相撲を楽しむ～観戦のための基礎知識講座」を開催しました。

また、小学生を対象とした「食育講座」「書道講座」「サイエンスショー」を開催し、楽しみながら学ぶ講座として多くの参加がありました。

ウ 図書室の運営

公民館に設置している図書室には、およそ 19,200 冊蔵書され、年度末で登録者数は 1,619 名で、貸出冊数は 9,325 冊でした。学園図書室は土曜日に一般開放を 37 日実施し、入館者 114 名、貸出冊数 10 冊でした。

南魚沼市図書館との相互利用では、湯沢町民による南魚沼市図書館の利用は、累計登録者 362 名、貸出冊数 6,248 冊、南魚沼市民による湯沢町公民館図書室の利用は、累計登録者 40 名、貸出冊数 451 冊でした。

エ 地区館事業

三国、三俣地区のスポーツ大会、湯沢地区の運動会、各地区の文化事業は実施できましたが、多数の参加が見込める神立、土樽地区の運動会が雨天のため実施できなかったことは残念でした。各地区館活動を推進し、地域のコミュニティ活動の活性化を図っています。なかなか難しい状況ですが、継続して推進していきます。

オ 全国童画展

全国童画展は 23 回を迎え、今回の応募作品 250 点から入賞入選作品 51 点を選出しました。作品展は、湯沢町公民館、湯沢カルチャーセンター、新潟ふるさと村で開催しました。

童画美術館（仮称）建設について、各種団体の代表者による意見公聴会を開くとともに町民の皆様から意見を募集しました。様々な意見を参考に担当部署の考え方をまとめ、報告書を提出しました。

カ 文化財保護

4月19日に新潟県指定文化財「三国街道脇本陣跡池田家」が町へ寄贈され、トイレ等の改修工事を実施し、7月にオープニングセレモニーを開催しました。

雪国館は、指定管理者制度により湯沢町観光協会が運営しており、様々な企画展、体験事業等を実施して利用者の増加に努めています。講演会・研修会では戊辰戦争から150年を迎え、三国峠の戦いバスツアーやトークショー等を開催しました。

キ スポーツ振興

スポーツ振興では、総合型地域スポーツクラブ「ユースポ！」に町のスポーツ関係を委託し実施しており、町民スポーツ大会のほかにも各種スポーツ教室を30回実施し約1,060名の参加をいただきました。

前年度から不在となっているスキー振興指導員は、今年度も不在となり、条件面の見直しも検討しながら、引き続き適任者を募集することとしました。

(3) 子育て支援課関連

ア 放課後児童クラブ

放課後児童クラブは、平成28年4月から指定管理者制度を導入し、社会福祉法人湯沢町社会福祉協議会による運営となり、預かり時間を19時まで拡充したほか、長期休業のみの利用に対応するなどサービスの充実を図りました。

利用者は年々増加傾向にあり、常時利用者は前年度から5名増の45人、長期休業のみの利用が19名増の34名となり、合計79名となりました。利用者増加に伴い、平成29年度から施設面積及び室温対応のために、交流アリーナ棟からこども園棟の渡り廊下（ホール部）の一部を活用できるようにカーテン設置等を実施し、対応しました。引き続き、利用児童の増加が見込まれることから、放課後児童支援員等の人員の確保や施設面積の確保を検討する必要があります。

イ 総合子育て支援センター

総合子育て支援センター（愛称：JumPla.net（ジャンプラネット））は、専任の保健師と保育士が常駐していることで、相談業務等に迅速に対応できるほか、湯沢学園内にあることで、保育士や教職員との情報共有を図ることができ、支援が必要な園児・児童・生徒とその家庭に的確な支援を行いました。

育児講座、親カフェ、ふれあい広場などの事業を実施して、多くの方から参加していただいています。平成29年度から療育発達支援事業として、年長児対象の小学校生活を想定した体験教室の「のびのび教室」を実施し、学校生活に求められる適切な態度を身に付け、緩やかに順応できるよう行っており、引き続き実施しました。

ウ 青少年健全育成、学園支援

青少年健全育成事業は、事務局を学園内の地域交流センターに置き、社会教育指導員を配置しています。青少年育成指導員を中心に「あいさつ運動」や各種行事での巡回や啓発活動、社会環境浄化活動などを行いました。

学園支援では、平成 30 年度に湯沢学園支援コーディネータ連絡協議会を立ち上げ、学園支援コーディネータが主体となり、通学路の見守りや花壇の整備、図書室の整理や環境整備、校舎清掃等の環境美化などの平成 31 年度の活動計画を作成しました。

また、地域交流センターが学校と学園ボランティアの橋渡しとなり、書道、ダンス、調理実習などの授業の補助を行ったり、花植えや草取り等も学園ボランティアの協力で行いました。

(4) 認定こども園関連

ア 湯沢認定こども園

開園 3 年目を迎え、保育士、園児とも環境に慣れてきました。七夕祖父母会、運動会、発表会などの行事では、多くの保護者や祖父母の方々が来場し、園児の元気に動き回る姿をご覧いただきました。園外保育では各地区に園児が出向き、子どもたちの声を地域に届けました。夏はプール遊び、冬は雪遊びと天気を見て積極的に屋外での活動をしました。保護者による「保育参加」では、多くのお父さんお母さんから参加いただきました。開園時から始めた、預かり時間の拡充（7 時 30 分から 19 時まで）、休日保育（年末年始を除く全ての休日）などのサービスも保育士のシフト対応等の協力で実施できており、引き続きサービスの充実に努めてまいります。

入園児数は未満児の入園率が増加しており、今後もこの傾向は続く見込みで、今後の対応が必要と考えます。

平成 30 年度入園児数（平成 31 年 1 月 1 日現在）

年齢	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	計
人数	13	19	36	40	38	43	189